

NEWS LETTER

一般社団法人 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会

- 目次
1. 世話人代表のごあいさつ
 2. 2020 年度の主な事業
 3. 第 34 回近畿・北陸地方会学術集会のお知らせ
 4. コロナ禍における看護研究・実習での取り組み

1. 世話人代表のごあいさつ

今年は諸々の対応に追われ、気がついたらカレンダーが最後という方も多いのではないのでしょうか。

さて、この一年を振り返って思いますことは、自律と他律のバランス、そして世界を知ることの大切さです。先日、世相を表す漢字ひと文字「密」が、森清範清水寺貫主の見事な筆で示されました。医療の中でも感染予防や健康増進につながる保健行動は、個人に利益をもたらすだけでなく、他の人々の健康をもまもるという「外部性」が大きい活動です。この外部性の大きさから、密を避ける暮らしが引き続き求められています。

とはいうものの人は密を避けることは不得意です。人類は集団を作り、一定の人々と親交を持ち、多くは特定の人と親密な関係を築いて命を繋ぎ、文化を生み出してきました。この脈々と受け継がれてきた集団生活に、密を避ける行動を、自律によってのみ組み入れることができる人は多くはないでしょう。そのため行動規範を示すバランスのとれた他律が必要となります。この自律と他律は、生活習慣病の予防とともに、様々な疾患や加齢に伴う不具合と上手く折り合いをつけて生きていくためにも役立つものです。生まれ持った機能や形態の違いに加え、経年変化による故障を受け止めながら、自律の部分を持ち続けつつ、他律を活用して自らを鼓舞して頑張ることによって、豊かな「いのち」を維持していけるのではないかと考えます。

また密がもつ閉鎖的で排他的な考えを排除し、開かれた考えを持つためには世界を知ることが欠かせません。日本を含め全世界で起きていることに関心を持ち、様々な現実を正しく捉えることが必要です。不健康で劣悪な生活状況にも目を向け事実を知るとともに、世界にあふれる文化や芸術を知ることにより、あらためて生きる意味に気づき、豊かな気持ちになれるのではないかと考えます。

穏やかな心で新しい年を迎えられますことを願っております。

2020 年 12 月 井上智子

2. 2020 年度の主な事業

1. 第 31 回 看護研究継続セミナー

日時：2020 年 11 月 16 日(月)～11 月 22 日(日)

テーマ：「健康寿命 UP を目指す看護&研究」

2. 第 34 回 近畿・北陸地方会学術集会

日時：2021 年 3 月 20 日(土)

テーマ：看護の原点回帰 情緒的価値観へのパラダイムシフト

事前参加申込期間となっています。
詳細は2ページをご参照ください!

3. 第 34 回近畿・北陸地方会学術集会のお知らせ

日時：2021 年 3 月 20 日(土)
 会場：誌上发表につき集合形式ではありません。
 学術集会長：守本 とも子(奈良学園大学)

テーマ：看護の原点回帰 情緒的価値観へのパラダイムシフト
 【会長講演】高齢者福祉の旅ー北陸における現状と課題ー
 【特別講演】奈良の志賀直哉
 【教育講演 I】仕事(看護師)・社会へのトランジションのための
 アクティブラーニング型授業の実践
 【教育講演 II】看護に生かす聴く力 ~ナラティブアプローチ~
 事前参加申込締切：2021 年 2 月 26 日(金)

誌上发表につき集合形式ではありません。



4. コロナ禍における看護研究・実習での取り組み

今年度は新型コロナウイルスの流行にともない、様々な変化が必要な年となりました。3名の方々から、コロナ禍における看護研究や実習での取り組みについてご紹介いただきました。

額 奈々先生
 石川県立看護大学

昨春から新人教員として就職し、研究に挑戦したいと意気込んでいましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、実施したいと思っていた研究を断念することになりました。その頃、緊急事態宣言が発令され、高齢者施設の職員の皆様が新型コロナウイルスから高齢者を守るためご尽力されていることをお聞きし、何かお役に立てることはないかと思うようになりました。アンケート調査であればコロナ禍でも実施可能と考え、北陸地方の高齢者施設を対象に新型コロナウイルスの感染対策に関する調査を行いました。多くの施設にご協力いただき、現在急ぎ集計しています。

施設入所高齢者は、大切な家族との面会や楽しみである外出の機会を制限され、刺激の少ない生活を送っており、認知機能の低下等が危惧されます。そのため、今回の研究では施設内の感染対策だけでなく、家族への対応についても調査しました。

現在もなお職員の皆様は、ケアの際の身体的な接触を避けられず、普段以上に高齢者へのケアに配慮をなさっていると思います。そのようなご多忙の中、研究に協力してくださったことへの感謝を忘れずに引き続き研究に取り組んでいきたいと思っています。

佐藤大介先生
 公立小松大学保健医療学部

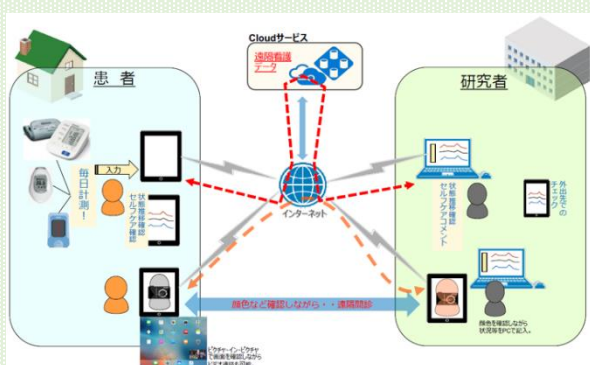
公立小松大学保健医療学部の佐藤大介と申します。今回は、私が現在行っている遠隔看護に関する研究についてのご紹介です。

在院日数の短縮化と医療技術の進歩に伴い、高度な治療が外来で行われるようになり、外来での継続治療や個々の患者に応じたタイムリーな看護提供が求められております。特に外来化学療法を受けるがん患者は治療による副作用のリスクが高く、セルフマネジメント教育が重要となります。従来臨床の場では、様々なパンフレットを活用しながら患者教育を実施し、治療による副作用の軽減や予防に努めてきました。

しかし、治療の副作用は在宅療養中に出現することが多く、患者の症状把握が難しい現状です。また現在 COVID-19 の感染拡大によって、免疫力が低下している外来化学療法を受けているがん患者は、罹患や重症化のリスクが高まっています。そのため遠隔地にいる医療者が治療を受けているがん患者の状態をタイムリーに把握し、必要な看護支援をすぐに提供することが望ましいと考えます。

そこでインターネットを用いた問診-回答方式によって、患者の生体情報を可視化した双方向型遠隔看護システムを構築しました。対象者には、タブレット端末・Bluetooth 付きの血圧計・体温計・パルスオキシメーターの 4 つを貸与して、問診への回答およびバイタルサイン測定を 1 回/日、お願いをしております。バイタル結果は Bluetooth を介して自動的にクラウドで保存され、医療者と対象者の双方がインターネット上で測定結果をリアルタイムで確認することができます。また何か困った点などがあれば、テレビ電話機能を用いて対応を行い、副作用症状の悪化予防に努めております。

COVID-19 の感染拡大により、研究を進める環境としては難しい日々ですが、今後も取り組んでいきたいと思っております。ご興味ある方はぜひご連絡を頂ければ幸いです。



近田真美子先生 近藤やよい先生
福井医療大学

多くの死者数と感染者数をたたき出しながら世界中で大混乱に陥れた新型コロナウイルス感染症。医療現場のみならず、看護教育の現場もこの厄介なウイルスに翻弄され続けた。

感染拡大防止対策に伴う構内への立ち入り禁止、対面授業からオンライン授業への変更、教授方法の変化といった様々なレベルでの方向転換は、大学という場で学ぶことの意味を改めて問い直す事態となった。

私たちが担当する精神看護学という学問領域においても大きな変革を強いられた。臨地実習では、実習内容ならびに時間数の制限を余儀なくされ、学内実習を中心としたプログラムに組みなおした。通常の臨地実習で学生が経験する意味内容を精選し、実習目標の中で特に重要な項目を中心に、状況に応じた演習をいくつか設定した。看護記録に固執し情報収集だけに囚われるという弊害を回避するため、情報を与えるタイミングを臨床で経験する時間軸に合わせて設定した。情報の質も、実習室に療養環境や作業療法室を再現し視覚や雰囲気働きかけたり、看護師らの申し送りの場面を再現したり、医師の診察場面を予告なしに音声情報として流すなど、五感に働きかけることを意識した。

とはいえ、やはり、対象者との関係性を含む臨床の場から得られる経験の深遠さには到底及ばないだろう。実習における学びとは、その場に己の身体を投企することで得られる経験こそが圧倒的な意味をもつ。感染コロナウイルス感染症が収束し、リアルな学びを得る機会が1日でも早く戻る日を心から願っている。



◆ 本地方会に関するお問い合わせ・ご連絡は下記の事務局までお願いします。

日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 事務局

同志社女子大学 看護学部看護学科(木村静・葉山)

TEL: 0774-65-8836(木村静)

e-mail: skimura@dwc.doshisha.ac.jp(木村静)

0774-65-8838(葉山)

yhayama@dwc.doshisha.ac.jp(葉山)

◆ ニュースレターでは、本地方会の活動に関する情報をお届けいたします。

詳細な情報をお知りになりたい場合は、学会ホームページも合わせてご活用ください。

<https://www.jsnr.or.jp/district/kinki-hokuriku/>